

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、厳しい状態にあるが、一部で持ち直しの動きがみられている。

すなわち、公共投資は、高めの水準で推移している。設備投資は、弱めの動きとなっている。住宅投資は、振れを伴いつつも基調として減少している。個人消費は、持ち直しつつある。生産は、持ち直している。雇用情勢をみると、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱めの動きがみられている。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症が管内の経済活動全般に及ぼす影響などを注視していく必要がある。

2. 最終需要の動向

公共投資は、高めの水準で推移している。

公共工事請負金額は、国土強靱化の工事発注などから、高水準で推移している。

設備投資は、弱めの動きとなっている。

主要企業の20年度の設備投資は、前年を上回る計画となっている。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響などを背景とする不確実性の高まりから、慎重な投資計画となっている。

住宅投資は、振れを伴いつつも基調として減少している。

新設住宅着工戸数は、持家が前年を上回った一方、貸家が前年を下回り、全体では前年を上回った。

個人消費は、持ち直しつつある。

主要小売店の売上高は、食料品を中心に前年を上回っている。

耐久消費財をみると、自動車販売（乗用車新車登録届出台数）は、普通・小型乗用車、軽乗用車ともに前年を下回ったが、足もとでは、持ち直しの動きがみられている。家電販売は、特別定額給付金の効果の反動がみられている。

旅行・観光関連をみると、市内ホテルの宿泊人数および主要温泉地の宿泊人数

は、新型コロナウイルス感染症の影響から大幅に落ち込んだあと、持ち直している。また、とちぎ帯広空港の乗降客数は、同感染症の影響による旅客数の減少および減便の継続により、前年を大幅に下回っている。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

生産は、持ち直している。

生乳生産量は、前年を上回っているほか、乳製品生産量は、生乳生産量の増加を背景に、高めの水準で推移している。農作物の生育状況（10月1日現在）をみると、天候の影響から大豆の生育に遅れがみられる一方、ばれいしょやとうもろこし（サイレージ用）の収穫、てんさいの生育は順調に推移している。

製材品生産量は、前年を下回った。

雇用情勢をみると、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱めの動きがみられている。

有効求人倍率（常用）は、前年を下回った。

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

9月の企業倒産（負債額10百万円以上）は、皆無であった。

4. 金融情勢

帯広市内金融機関の実質預金残高は、法人預金、個人預金の増加から前年を上回っている。

貸出残高は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う法人資金需要の高まりを背景に、前年を上回っている。

貸出約定平均金利（8月末、総合）は、銀行、信金ともに前月を下回った。

以 上